

二松学舎大学とフォーバルが包括連携協定

文系教育とIT研修の融合

企業ドクター人材の育成等支援

二松学舎大学（東京都千代田区）と㈱フォーバル（東京都渋谷区）は5月27日、同大学で「包括連携協定」を締結した。

このような経緯により、協定の内容として、①「GDXおよびESG経営に関する研究へのアドバイスの実施」②「在学生に対するDXアドバイザー検定取得の支援の実施」③「企業ドクター人材の育成およびESG経営に関するカリキュラム（インターンを含む）の策定を支援」④「産学協同による地域連携・社会の危機的状況食い止

一方、同社は「『新しいあたりまえ』で、新しい世界を創るFORVAL」を理念に掲げ、ESG（E：環境、S：社会、G：ガバナンス）経営を可視化伴走型で支援する「企業ドクター（次世代経営コンサルタント）集団」として注目されている。中小企業の経営支援やGDX（グリーンおよびデジタルトランスフォーメーション）を通じて、多くの産学連携事業を展開している。

同大学は文学部と国際政治経済学部を有しており、文系教育を中心に行ってきたが最近、情報系経営コンサルタント）集



中島社長（左）と佐藤学長（右）の経営支援やGDX（グリーンおよびデジタルトランスフォーメーション）を通じて、多くの産学連携事業を展開している。



二松学舎大学 × 株式会社フォーバル 包括連携協定 締結
後列左から五十嵐氏、今西氏、水野氏、五月女氏、高岸氏、小久保氏、前列左から小林氏、中島社長、佐藤学長、押野氏

自ら考え行動できる人材の育成を目指す

調印後、行われたあいさつで、中島社長は「地方創生の時代と言われている中で、中小規模の経営の危機的状況食い止める必要がある」と指摘した上で「DX、GXの進展で、社会の価値観自体が新しさを求められている。中小企業はこの状況に対応していかねばならない。日本全国の中小規模の赤字経営を解決するためにアドバイスするのが、企業ドクター。学生が社会の課題を解決する主役となって企業ドクターとなるように期待している」と述べた。また、現在13の大学と提携し、学生約3600人がカリキュラムを受講して

五月女肇志・文学部長、高岸直樹・国際政治経済学部部長、小久保欣哉・国際政治経済学部国際経営学科教授が出席。同社からは中島将典代表取締役社長、小林功典・上席常務執行役員関東・甲信越カンパニー長、水野博之

・執行役員グループCMOグループ広報戦略統括部長、今西一・執行役員きづなPARK統括部長、五十嵐俊行・企業ドクター開発センター長が出席した。

いること等を紹介した。

一方、同大学は1987年三島中洲氏によって漢学塾二松学舎として設立された。現在、2学部を擁する。佐藤学長は「今回の協定は、国際政治経済学部国際政治学科の一つのゼミナールと㈱フォーバル様との協力関係から始まった。経営を学ぶ学生たちが、理論と実践の両方を学ぶことは大変有意義な機会となっている。本協定を契機に、産学連携の下、自ら考え行動できる人材の育成という本学の建学の精神にのっとった学生を育成していきたい」とあいさつした。